

(平成28年2月18日)

第16回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H28. 2. 16 (火) 18:30~20:30
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F B会議室
出席者 : 19名

< 配布資料 >

- 重訂英国歩兵練法(赤本)と英国歩兵練法(青本)の保存について
＜石川浩さん作成の(レジメ) A3版1頁＞
- 赤松小三郎と佐久間象山
＜滝澤進さん作成の(レジメ) 両面印刷A4版23頁＞

次回使用資料(次回まで読んでおいてください)

- 次回(4月19日の赤松小三郎研究会)で意見交換のために使用する資料
赤松小三郎研究会・討論テーマ「赤松小三郎を新たな視座で見る」
＜宮原安春さん作成、両面印刷A4版7頁＞
- 次回資料 参考④ 「憲法構想」岩波書店 より3 赤松小三郎の議政局論
＜片面印刷A4版3頁＞

その他関連資料

- 「真田一族と幸村の城」山名美和子著 角川新書 より抜粋コピー
(沓掛忠さんより)
- 無数にめぐる江戸の掘割が分けた“地域性”(真田濠の話)
「東京人」2015年5月号よりコピー
(沓掛忠さんより)
- “「真田丸」を歩く” 現代書館 星亮一編のチラシ。
佐藤智子さんが執筆者の一人です。ご購入ご一読をお願いします。
(荻原貴さんより)

< 内容 >

1. 重訂英国歩兵練法(赤本)と英国歩兵練法(青本)の保存について 石川浩さん
石川浩さんが、赤本、青本の保存施設(法政大学大原社会問題研究所、板橋区郷土資料館、横浜開港資料館)を訪ねて調査した結果報告。
 - ・保存状態の良いところ、虫に食われ悪い状態の施設もある。
 - ・赤本は全国で10カ所以上に保存されている。慶応3年末にはかなりの部数が製本されていたと思われる。
 - ・赤本、青本、両方を所蔵している施設
上田市立博物館、防衛大学校図書館、鹿児島黎明館、山口大学附属図書館、横浜開港資料館、法政大学大原社会問題研究所

- ・赤本、青本のどちらかを所蔵している施設
板橋区立郷土資料館（赤本全9冊、保存状態良し）、国立歴史民俗博物館（赤本）、
石川県立歴史博物館、小浜市立図書館、盛岡歴史文化会館（青本、3冊のみ）、
福井市立博物館、国立文学研究資料館（マイクロのみ）
- ・山口大学付属図書館のご担当から、重訂英国歩兵練法（赤本）について、筑波大学・関西大学・同志社大学の夫々の図書館にも所蔵されているとの情報あり。
- ・その他、青山忠正教授のように個人保有されているものもある。
- ・幕末期に翻訳された重訂英国歩兵練法と類似の兵法書
英国歩兵操練図解（古屋佐久左衛門）、英国歩操図解（高槻肇）、歩操新式大隊教練（高島秋帆）、英国尾栓銃練兵号令詞（平元秀次郎）、官版歩兵練法（大鳥圭介）などがある。
- ・見学するのであれば、赤本のみ在所蔵であるが、板橋区立郷土資料館は保存状態がよく、実物を閲覧できるのでお勧め（写真撮影も無料でできる）
- ・写真撮影が許される場所（法政大学大原社会問題研究所）で手分けして撮影しデータベース化して訳本を読み比べて相違を研究したらどうか（関良基さん）
- ・板橋区立郷土資料館の赤本保有者は所荘吉。（西洋兵書をコレクションしておられる方）所荘吉コレクションの図版を回覧した（河元由美子さん所有）

2. 赤松小三郎と佐久間象山 滝澤進さん（61期）

I 序

赤松：公武一体（天幕合体）・代議政体（二院制議会）

佐久間：公武合体、東洋の道徳、西洋の芸術、朝廷・幕府を超えた国家（ネーション）

II 佐久間象山概論

- ・横井小楠とならぶ幕末最大の先進的開国思想家、革命思想家。
- ・近代日本の国家戦略及び進路を決定づけた人物。幕末の志士のほとんどは象山か小楠の弟子。

III 佐久間象山の思想と政治行動

III-1 思想

- ・朱子学の忠実な信奉者。陽明学を強く否定。
- ・国家の対外的独立とは、一部の識者、支配者の問題ではなく、身分の上下を超えて国民全体の関心事である。（ナショナリズムに根差した具体的国家戦略を打ち出す）
- ・尊王ではあるが、幕藩体制の下での開国による日本の近代化を志向した。
- ・分権的な幕藩体制を中央集権的な統一国家体制へ改め、門閥制度を超えて人材登用を図る。

III-2 政治行動（提言、意見）

- ・学制意見書（天保8年5月）学制に関する松代藩宛て意見書

- ・海防八策（天保13年11月）海防に関する藩主宛て上書
- ・靴野地方における殖産興業と弊害除去（弘化元年10月）
- ・沿岸防御の不備について幕府宛上書稿（嘉永3年4月）
- ・急務10条（嘉永6年秋）
- ・省けん録（安政2年、全57個条）
- ・梁川星巖あて密書（安政5年1月、3月）
- ・ハリスとの折衝案に関する幕府宛上書稿（安政5年4月）
- ・時勢に関する幕府宛上書稿（文久2年9月）
- ・攘夷の策略に関する藩主宛答申書（文久2年12月）
- ・一橋慶喜宛建白（元治元年4月）
- ・諸外国との対応についての勅諭草案（元治元年）

IV 赤松小三郎と佐久間象山

IV-1 年譜による赤松と佐久間の比較

IV-2 赤松と佐久間との交流・接点

IV-3 赤松と佐久間の共通点と相違点

IV-4 赤松と佐久間の思想比較

V 佐久間象山との比較における赤松小三郎

V-1 政治思想

赤松と佐久間はともに信州出身の思想家・教育家・実践家であり、「時代に先んずる先進的思想家」としての評価を受けるに相応しい実績を残している。また、「公武合体」、「富国強兵」、「門閥の否定（人材登用）」、「西洋学術の積極的な導入」、「人材教育」などの面においては、両者はかなり近いところにあったと考えられる。

他方、統治形態に関しては、赤松が、公議政体として先進的な二院制議会の構想を他に先駆けて具体的かつ体系的に打ち出しているのに対し、象山は、あくまでも徳川封建体制を理想としつつ、海防の観点から当時としては革新的な朝廷、幕府を越えた「国家」を志向している点に特徴がある。

また、赤松は、時代的背景もあり開国についての考え方を明示的に示していないが、象山は、その思想・主張の根幹に、常に“開国による真の攘夷”を置いている。

学問においては、赤松、象山ともに、外国語の修得とそれを駆使しての外国技術の導入に人並み外れた情熱を傾けたが、特に、赤松は、オランダ語のみならず英語をもマスターし、語学に天才的な才能を発揮した。また、漢学については、赤松が、余り興味を示さなかったとされるのに対し、象山は、朱子学を厳格に重んじこれを常に思想の原点としていた。

具体的な政治的な提言・主張では、赤松が、先進的な議会制度の提案とともに、経済分野を含む幅広い近代化のための提言を行っているのに対し、象山は、徳川封建制を前提とし、海防・国防を中心に「国」のあり方を提言の中心テーマとしている。

V-2 政治に及ぼした影響

政治への具体的な影響については、赤松は、春嶽・久光への建白、西郷などへの幕薩一和の働きかけ、「英国歩兵練法」の翻訳や京都における塾生への教育などを通じてのわが国兵制の近代化の貢献などによって、幕末・明治の政治に大きな影響を与えるとともに、山本覚馬などを通じ明治政府の施策や京都府政の発展にも大きく貢献したものとみられる。

これに対し、佐久間は、真田幸貫、徳川慶喜のブレーンとして、幕末のわが国の対外政策や政治に大きな影響力を及ぼすとともに、吉田松陰、勝海舟等の門人を通じて幕末、明治の政治に大きな影響力を及ぼすこととなった。また、井上聞多、伊藤博文らが長州ファイブとしてイギリスに渡航したのも、象山の影響によるものといわれる。

以上

赤松小三郎研究会 事務局 小山平六（62期）